

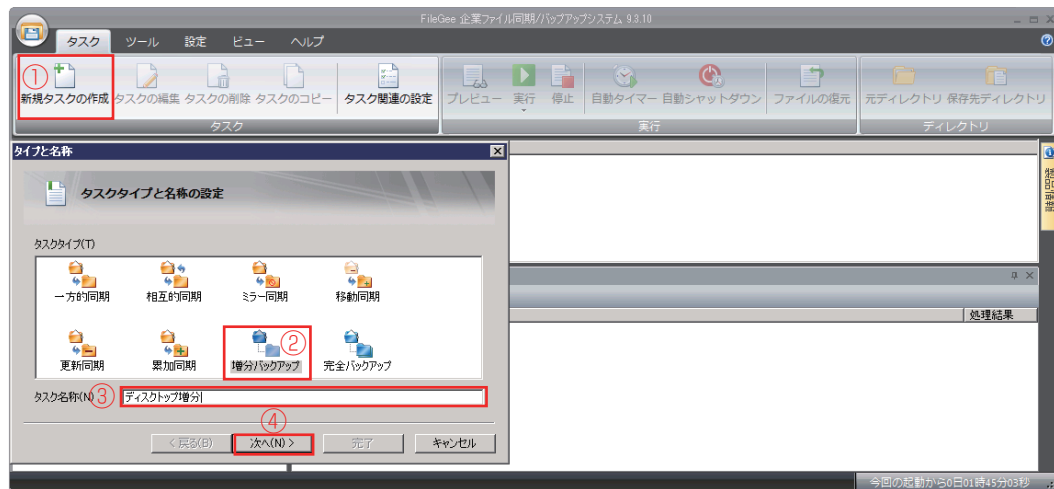
FileGee スタンドアローン

Version 1.1

FileGee スタンドアローンマニュアル 「**新規タスクの作成**」

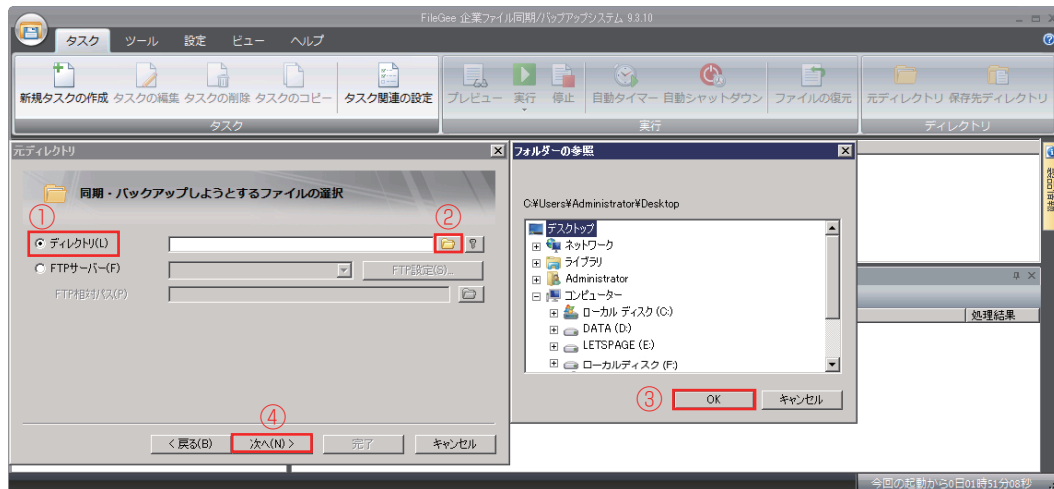
新規タスクの作成～「増分バックアップ編」

このマニュアルでは世代管理ができるよう増分バックアップを紹介します。
増分バックアップとは、タスク実行時更新されたファイルのみタイムスタンプ
を用いて日付・時間毎に管理復元できる機能です。



今回の事例は、クライアントパソコンのデスクトップ上のファイルをサーバー内に毎日 12:00 になると増分バックアップするよう設定します。

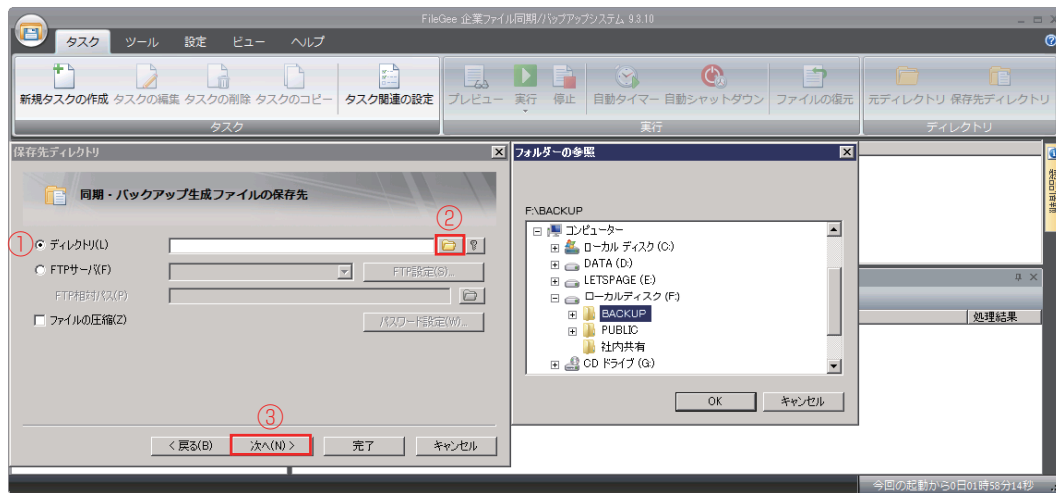
タスクタブを開くと①「新規タスクの作成」がありますので、そちらをクリックして下さい
②の「増分バックアップ」をクリックし③の「タスク名称」に管理しやすい任意の名前を入力します。（例 デスクトップ増分など）入力が完了したら④「次へ」をクリックしましょう。
※増分バックアップでも初回タスク実行時は完全バックアップが行われます。



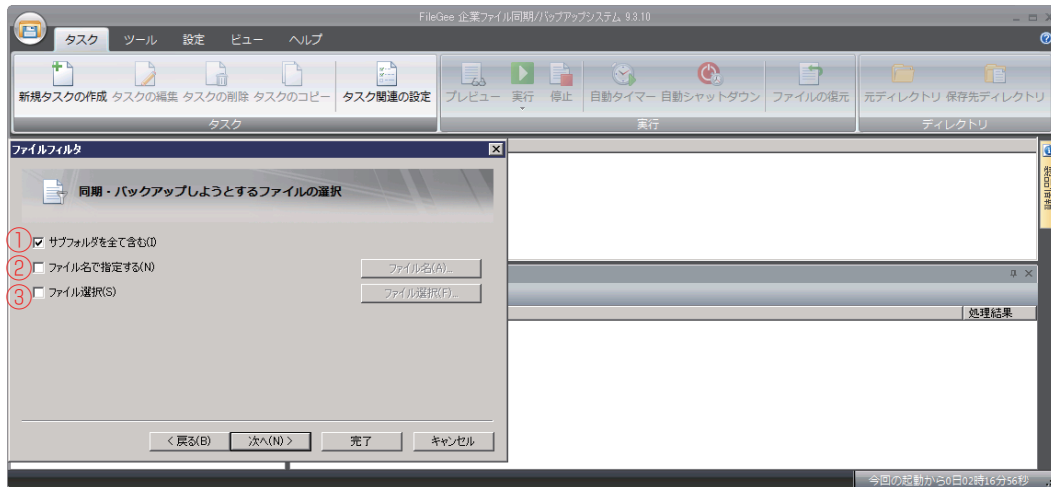
上記画面が表示されたら①の部分が表示されているのを確認し②をクリックします。「フォルダの参照」画面が表示されたらデスクトップを選択してください。尚、マイドキュメントなどをバックアップしたい場合この画面で選択します。選択が完了したら③「OK」をクリックし、④「次へ」を押して下さい。

※Windows XP をご利用の場合「フォルダの参照」内にマイドキュメントが表示されますが、Windows7 などをご利用の方は、以下の方法でマイドキュメント等を指定できます。

- ① ローカルディスク (C) を W クリックします。
※環境によっては名前が異なる場合があります。C ドライブを指定する
- ② ユーザーを W クリックする
- ③ その中にご利用のユーザー名が表示されていると思いますので、それをクリック。
- ④ ここで、マイドキュメント・マイ ピクチャ・マイ ミュージックなどを指定する事ができます。



次はバックアップ先の設定をします。①がチェックされているのを確認し②をクリックしフォルダ参照の画面からバックアップ先を選んで③の「次へ」をクリックします。



バックアップするファイルの詳細をここで指定することができます。

① サブフォルダを全て含む

この項目にチェックを入れると、指定したバックアップ元のサブフォルダ含む全てがバックアップ対象になります。

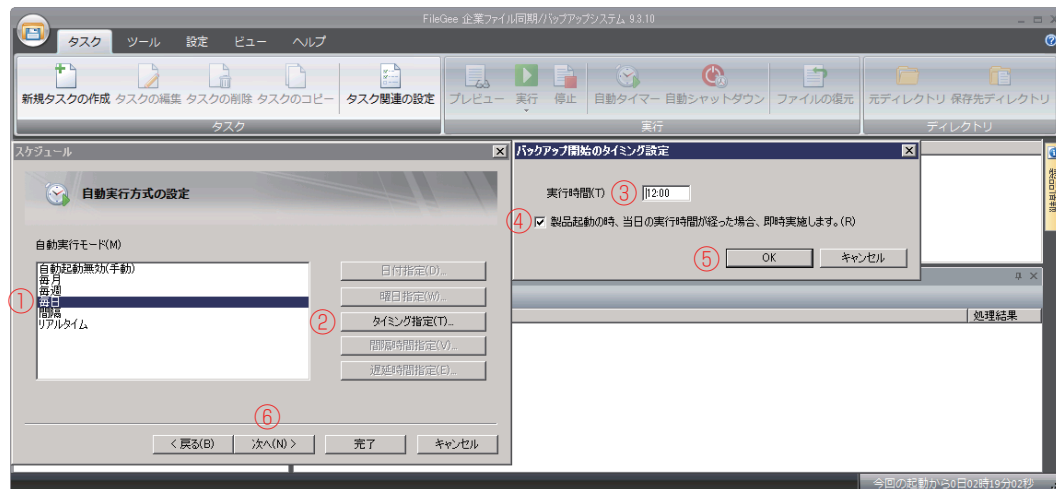
② ファイル名で指定する

この項目にチェックを入れ右側の「ファイル名」をクリックすると、特定のファイル名にマッチする物だけバックアップ対象になります。

③ ファイル選択

この項目にチェックを入れ右側の「ファイル選択」をクリックすると、バックアップしたいファイルがスポットで指定できます。

今回は、サブフォルダ含む全てのファイルをバックアップ対象としますので、「サブフォルダを全て含む」のみ選択して「次へ」をクリックして下さい。



次は、バックアップする時間帯と間隔を指定します。今回は、毎日 12:00 にバックアップタスクを実行しますので、以下のように設定しましょう。

- ① 毎日を選択して下さい。

※その他、日付を指定する事や曜日・リアルタイムなど豊富なスケジュールが可能！

- ② タイミング指定

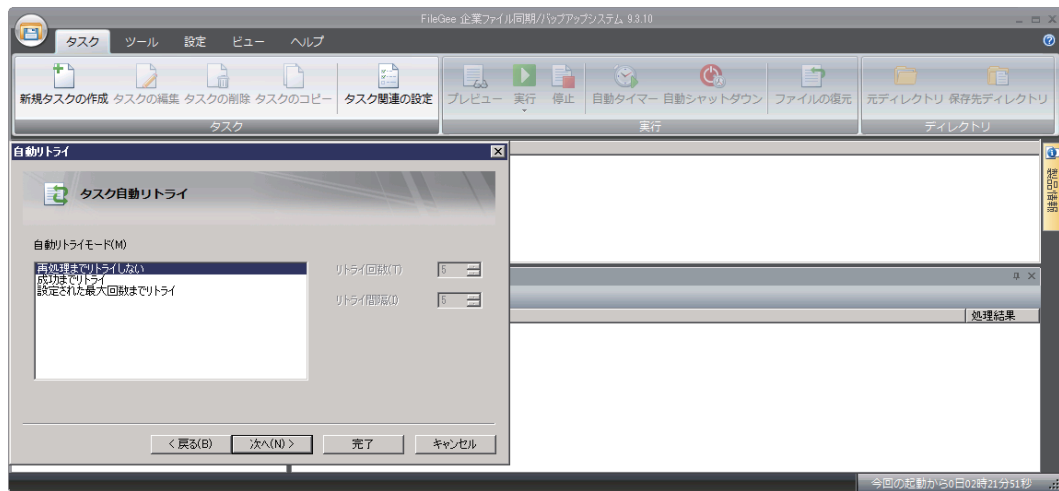
バックアップ開始のタイミングを指定します。②をクリックして下さい。

- ③ 標準で 12:00 が既に表示されているので、次の手順へ進みます。

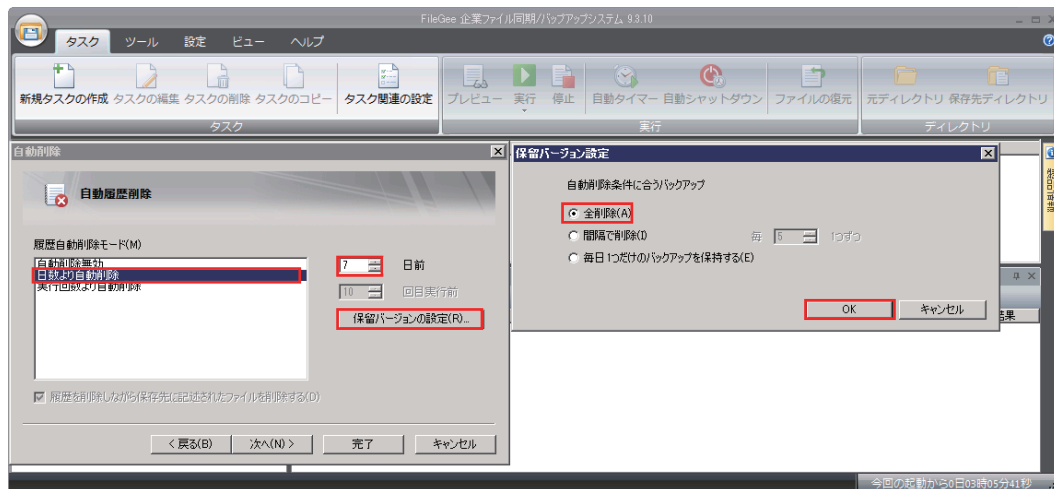
- ④ 製品起動の時、当日の実行時間が経った場合、即時実施します。

この部分にチェックが入っている場合、設定したタスク実行時間を過ぎてパソコンが起動された場合は直ちにバックアップ処理が行われます。通常チェックを入れて下さい。

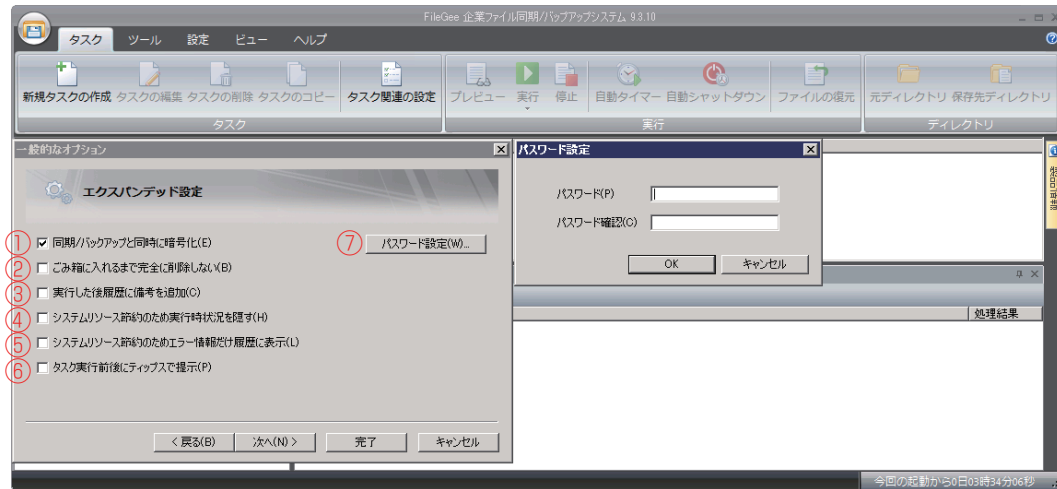
- ⑤の「OK」をクリックし⑥の「次へ」をクリックします。



増分バックアップでは、タスクの自動リトライ機能は使えません。「再処理までリトライしない」を選択し「次へ」をクリックして下さい。

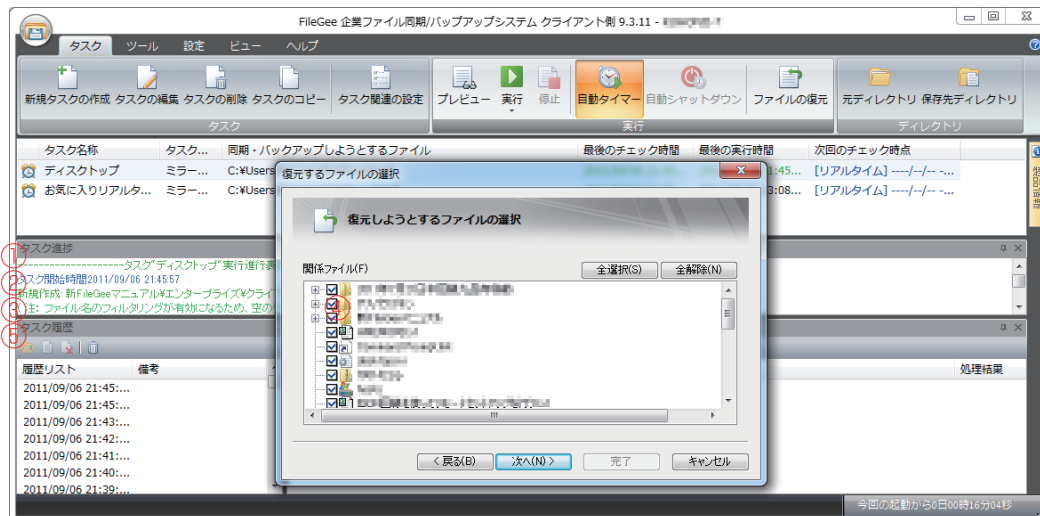


ここでは増分バックアップの世代管理の期間を指定します。上記の設定では、「日数より自動削除」「7 日前」「保留バージョンの設定」は「全削除」となっていますので 7 日間の増分ファイルが保存されます。また「実行回数より自動削除」を選択し「10 回目実行前」を指定すると 10 回バックアップされた前の状態まで復元できます。指定が完了したら「OK」を押して下さい。



- ① 同期 / バックアップと同時に暗号化
この機能を使うとバックアップされるデータが暗号化されます。⑦をクリックし表示されたパスワード設定画面に暗号化に使うパスワードを入力します。
- ② ごみ箱に入れるまで完全に削除しない
この機能は、(バックアップ先がローカル PC 内) 例えばミラー同期でマイドキュメントをローカルディスク D にバックアップしていた場合、バックアップ先から同期の際削除されたデータはごみ箱に移動される機能です。
- ③ 実行した後履歴に備考を追加
タスクが実行される前に「備考」を入力する画面が表示されます。バックアップの度に管理上メモを残す場合に便利です。
- ④ システムリソース節約のため実行時状況を隠す
タスク実行時表示される「タスク進捗」が非表示になり PC の負荷が軽減されます
- ⑤ システムリソース節約のためエラー情報だけ履歴に表示
バックアップが完了すると、その履歴 (ログ) が記載されますがリソースを節約する為、バックアップがエラーになった部分のみ履歴に記載する事ができます。
- ⑥ タスク実行前後にティップスで掲示
この項目にチェックを入れると、バックアップ開始時と終了時、タスクバー状況が小さく表示されます。

必要な部分にチェックを入れ「次へ」をクリックします。



① Hot-Backup

この機能は管理者権限で実行する必要があり、例えば Excel や Word など、現在開いているファイルも強制的にバックアップする事ができます。また起動中の Outlook などの DB もこの機能を使ってバックアップする事が可能です。
※できるだけ DB をバックアップする時は、(mysql や Outlook など) 停止させてからバックアップ処理をするようにして下さい。

② ファイルコピーと同時に権限もコピーする

ファイルにセキュリティ上各権限を与えている時、この機能を使う事でその権限もコピーされます。

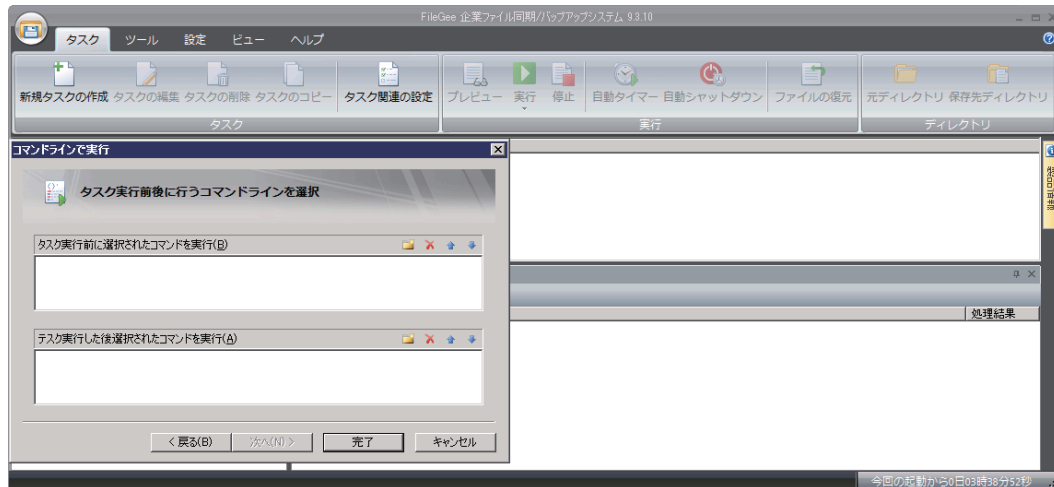
③ FTP 並行ファイル転送

バックアップ先を FTP サーバーに設定している場合、④のスレッド数を指定する事で同時に複数転送処理が行われバックアップ転送処理が早くなります。

⑤ FTP は FXP でサーバーにファイルを転送する

FileGee は FTP サーバー上のデータを別 FTP サーバーに中継転送する事ができます。その際、この機能を使う事で直接「元 FTP から先 FTP へ」データ転送が行われます。(クライアント PC を経由しない)

今回の設定では①のみチェックをし「次へ」をクリックしてください。



この画面では、バックアップタスク実行前と実行後にコマンドを渡す事ができます。例えば、パソコンに顧客管理プログラムや、会計ソフトが入っておりそのデータベースをバックアップする場合、各ソフトが提供しているバックアップ機能をこの画面から指定し（呼び出し）、FileGee でバックアップ処理される前にデータベースを各ソフト側で特定のフォルダにデータベースのコピーを取りその後そのコピーしたデータベースを FileGee が拾う方法です。データベースをバックアップする場合この機能を使うと確実にデータベースを破損させる事なく安全にバックアップできます。

今回は、デスクトップのファイル（Excel や Word など）をバックアップする方法を紹介していますので、この機能は使いません。「完了」をクリックしてください。これで、増分バックアップのタスク作成は終了です。